



触るグリフ 利用方法

サワルグリフ代表
言語聴覚士 宮崎 圭佑



触るグリフの使い方

- ①見ながら触れて音読する
- ②必ず「初回評価」と「定期評価」を実施する
- ③段階的に実施する

第1セクション: 仮名 (50音、濁音、特殊音節)

第2セクション: 仮名单語

第3セクション: 文章 (横縦)

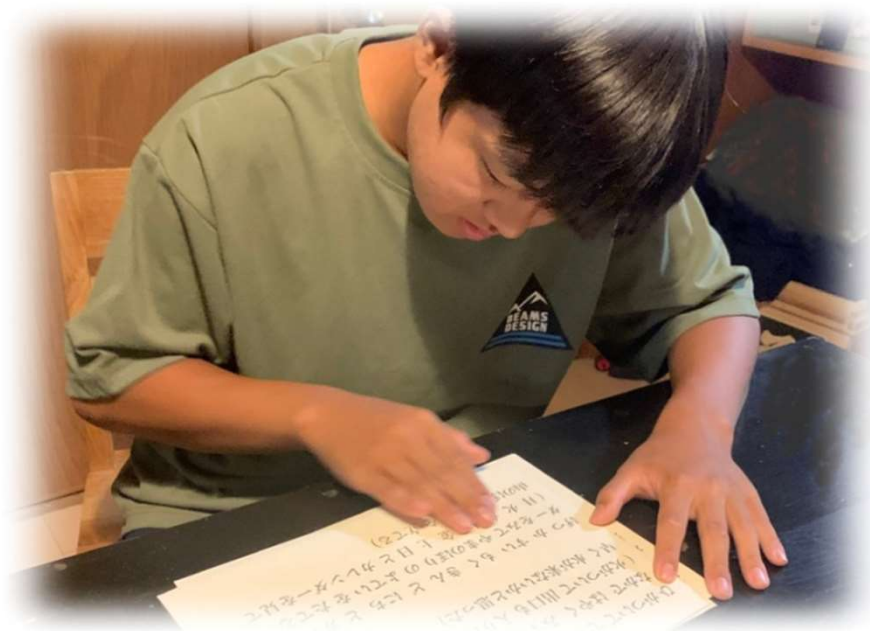
(漢字は、第1セクションから並行して開始してもよい)

- ④1セクションあたり、8回繰り返す。

(8回繰り返す中で、3~4回は、パソコンで映像音声を見ながら触れる事を推奨)

- ⑤指の腹で「文字の形」を確かめながら触れる

- ⑥第1,2,3セクションを終えたら、今度は1日1セクション毎2週間ほど行う





触読版シートの種類



■第1セクション

- ・ ひらがな50音、濁音、特殊音節
- ・ カタカナ50音、濁音、特殊音節

■第2セクション

- ・ ひらがな単語 (2から7モーラ)
- ・ カタカナ単語 (2から7モーラ)

■第3セクション

- ・ 漢字を含む横文字の文章
- ・ 漢字を含む縦文字の文章

■仮名单語

- ・ 基礎漢字

※小I版と標準で一部内容が異なります



触るグリフを「視ながら触れて」音読する方法



■触読版シートの触れ方

- 文字を「指面」で触れて文字全体の形を確かめながら読む（指先で画線をなぞらない方がよい）
- 文字の形を確かめながら「見ながら触れて音読」
- 触れるだけではなく、必ず「音読」もすること
- 仮名・文字は、文字の形を確かめる
- 単語や短文は文字列を指の腹でゆっくり触れて、単語の形を確かめる
- ADHDなどを併存する児童は、早く粗雑になる傾向があるので、少しペースダウンして触れる。



読み書きLDに対する触るグリフの効果原理

文字形態（文字のカタチ）
の記憶形成



文字形態と音の結びつき
（連合記憶形成）



単語としての
一纏め記憶の形成

スラスラと読めない

文字を覚える事が苦手

文字を読むと疲れる

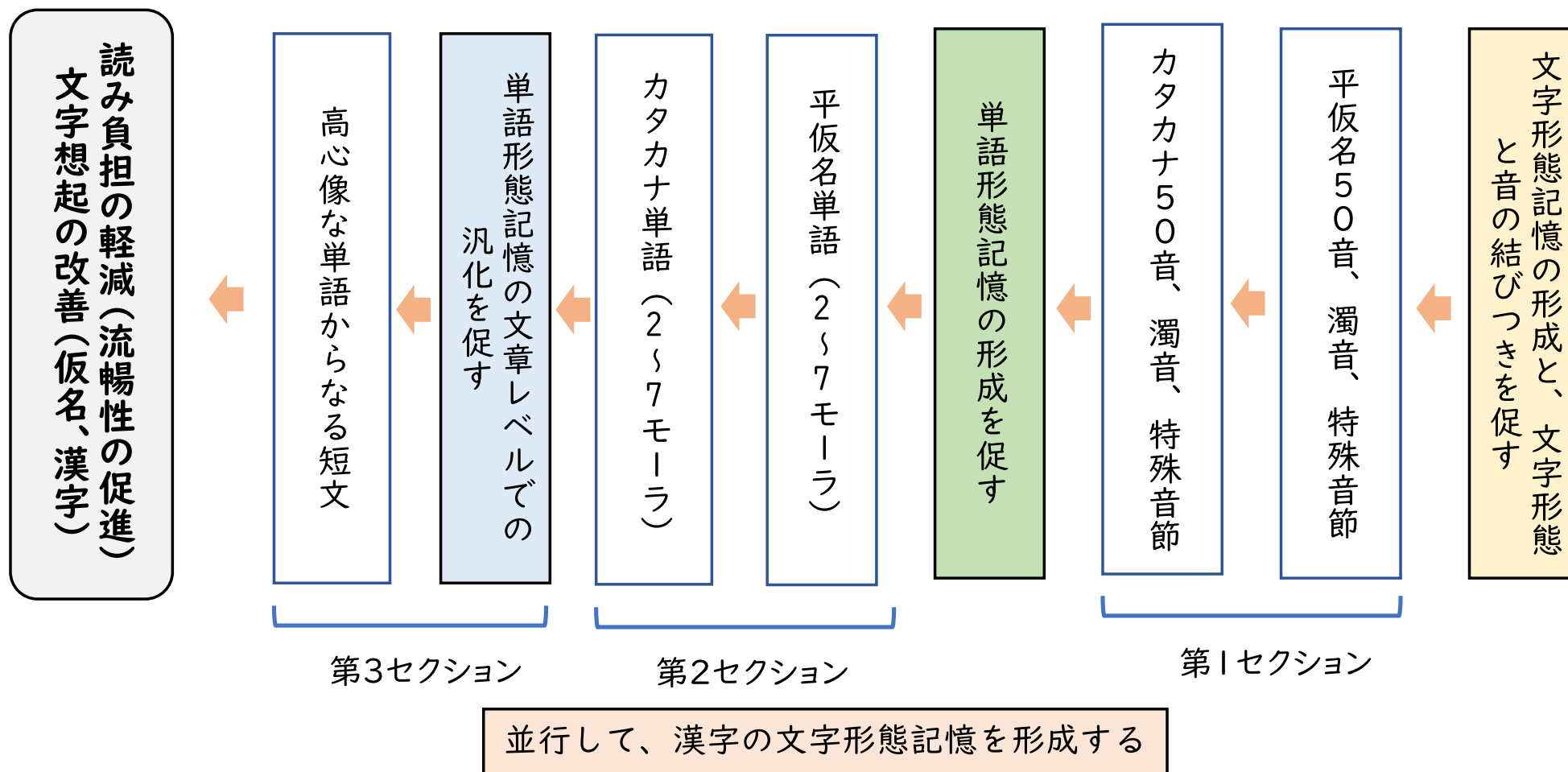
文字が思い出しにくい

読み間違いが多い

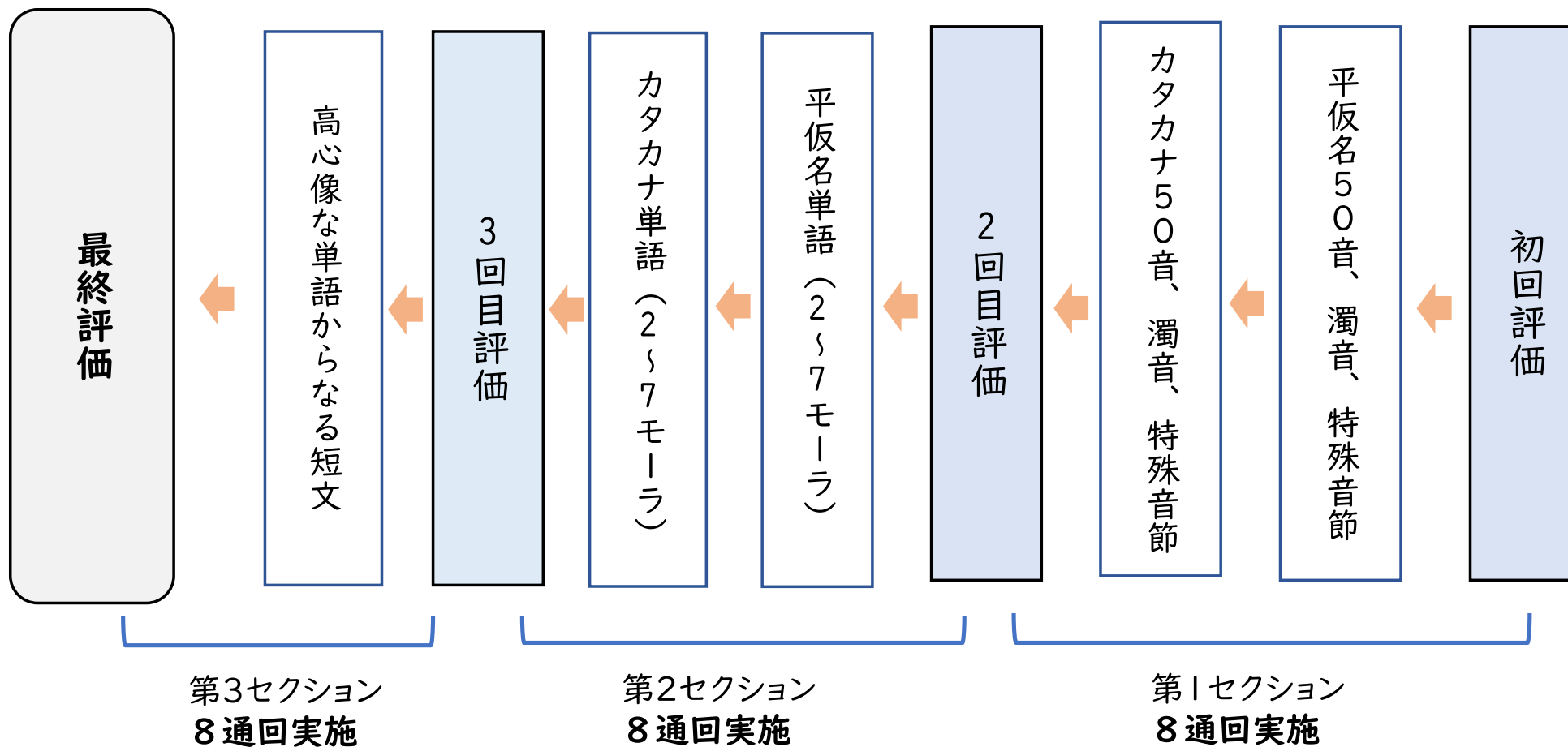
英語学習が著しく苦手



文字のカタチから、単語⇒短文へと段階的に実施する



第1、第2、第3セクション（1セクション8回繰り返す）

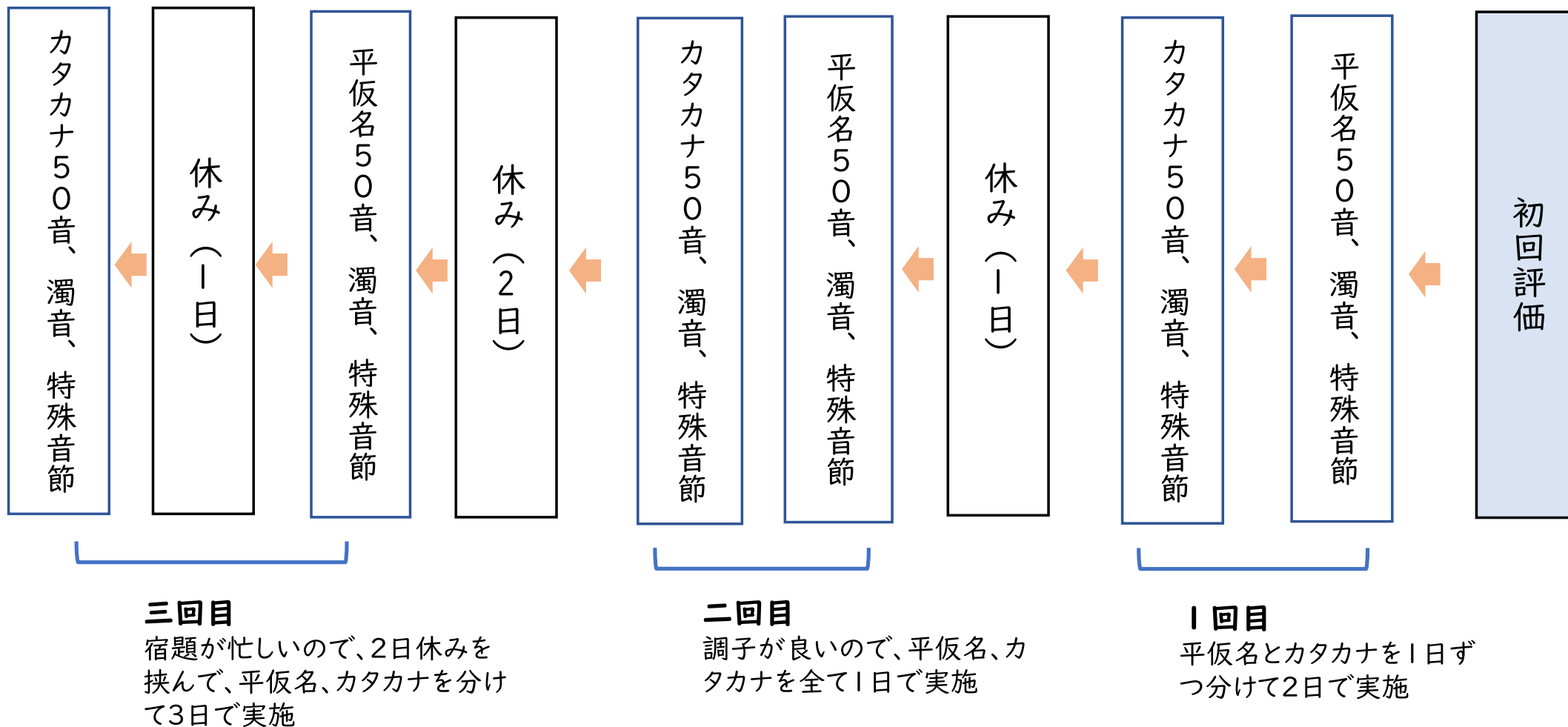


3つのセクションを全て終えたら、1日1セクション毎に10日～14日ほど行う

並行して、漢字の文字形態記憶を形成する

負担の無い分量で行う（実施例：A君の場合）

2日実施＋（1日休み）＋1日実施＋（2日休み）＋1日実施＋（1日休み）＋1日実施＝8日間





必ず「実施前」と「実施後」に読み書きの評価を行う



44歳 Dyslexia 男性音読 本人承諾済み撮影使用)

触るグリフ「**実施前**」と「**実施後**」で、評価シート
の文章音読や読み上げ書字を比べる

音読の様子はスマホで「動画撮影」し、読み上げ書
取は「カメラ撮影」保存しておく。

- 読み時間の短縮
- スムーズに読めるようになったか？
- 書く時間は短縮したか？
- 書けなかった文字が書けるようになったか？



定期評価（読み＆書き）

■単語と文章の音読評価

【客観的变化】

音読時間の短縮、読み間違いの減少、逐次読み、などの変化を測る。

【主観的&観察変化】

読みに伴う疲労の軽減、普段の文字を読む頻度の変化

■仮名、漢字の書き取り評価

【客観的变化】

書ける文字の数が増えたか？文字が思い浮かぶまでの時間が短縮したか？

【主観的&観察変化】

文字が思い出しやすくなったか？文字を覚えやすくなったか？文字の形が思い浮かぶか



定期評価（書字）

■ 仮名、漢字の書き取り評価

✓ 客観的評価

書ける文字の数が増えたか？文字が思い浮かぶまでの時間が短縮したか？

✓ 主観的評価

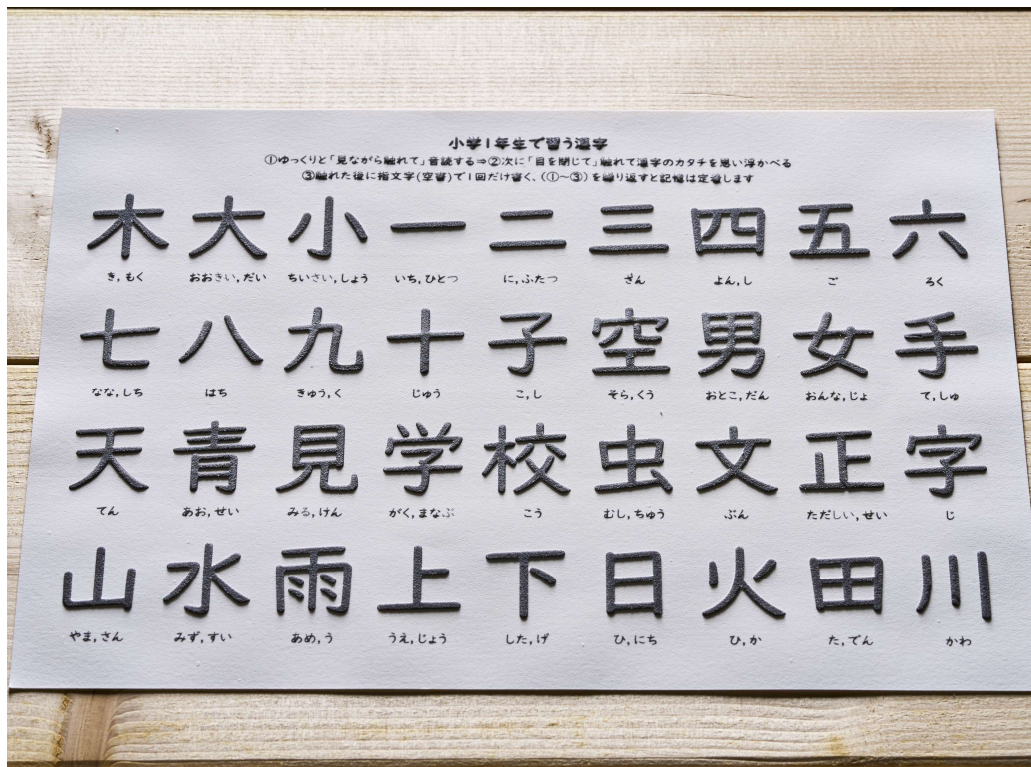
文字が思い出しやすくなったか？文字を覚えやすくなったか？文字の形が思い浮かぶか？

評価方法

初回評価から8通り毎に、文字の書取評価を行う。評価シートの仮名や漢字を保護者が読み上げて、それを書いてもらう。書取の様子はスマホなどで動画撮影する



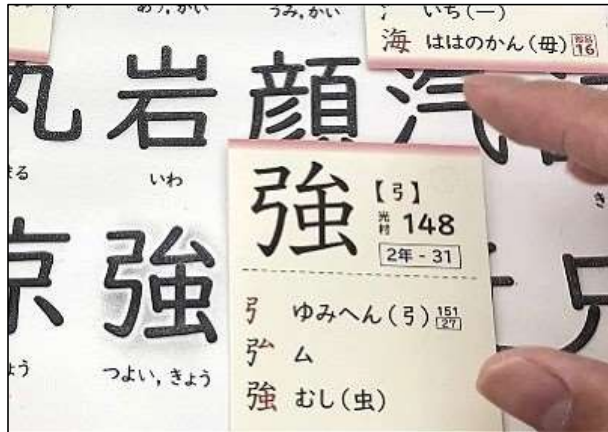
触るグリフの漢字学習法



- 漢字は無理のない個数ペースで行う
(例) 1日3個~5個ずつなど
- 独立したセクション
漢字シートは、第一セクションから、並行して開始しても問題ありません。
- 部分から全体に触れる
【例】男 (触れる順番) 田⇒力⇒男
- 聴覚法との組み合わせも推奨
唱えながら、部分パーツに触れる。
最後は全体に触れる



「触るグリフ」と「聴覚法」の組み合わせ漢字学習法



ミチムラ式漢字カード



小学全漢字おぼえるカード

聴覚法との組み合わせ学習方法も推奨しています。

漢字の部分パーツを唱えながら、触るグリフの漢字部分パーツに触れる事で、より2つの感覚からの多重符号化で、記憶定着が増します。

「例：強」⇒ (ゆみへん、ム、むし)

ミチムラ式漢字カード(上)：かんじクラウド(株)

漢字の部分パーツの組み合わせパターンとして、効率的に覚えらる <https://shop.kanji.cloud/>

小学全漢字おぼえるカード(下)：学研プラス

漢字の成り立ちを、エピソード的に覚えらる

<https://gakken-mall.jp/ec/pro/displ/1/1130467400>



「遊び」を用いた指導法 (文字が未修得な場合や拒否感がある場合)



最初は50音順で行って、ある程度なれてきたら、ランダムな順番で実施しても、変化があって楽しめるでしょう。

■ 子供が触れた文字を、保護者や指導者が言う

(例) 子供が「ア」に触れたら、保護者や指導者が「ア」と言う。

【工夫:音遊び】 子供が触れる速さにあわせて、言う音を変える遊び(例) 長く触れたら「引き伸ばして大きな声」で、短く触れたら「少し小さく早い声」で、など調整してみる

■ 保護者や指導者が読んだ文字を、子供が触れる

(例) 保護者や指導者がゆっくりと、読み上げた文字を子供が触れる

【工夫:閉眼当てゲーム】 ある程度慣れてくると、50音順でよいので、目を閉じて読み上げた文字を当てるゲームなどを実施しても面白い。© サワルグリフ



未就学児の文字学習



AIで生成した絵なので文字の向きは変です

息子（5歳）の触るグリフを使った文字学習

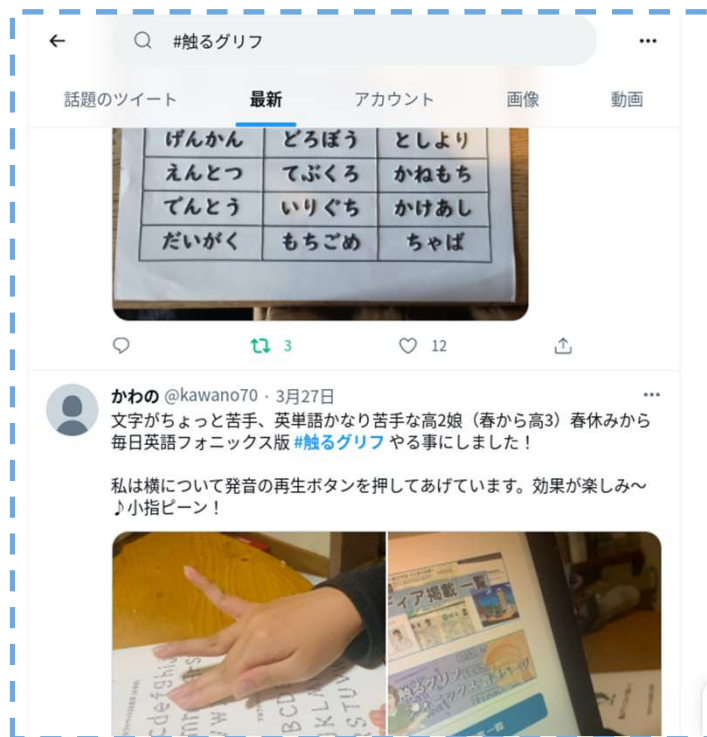
意識的に学習が難しい未就学児は「遊び」を介して、文字体験を積む事が大切です。

- アンパンマンのマグネットボードに「仮名」を書いて読み上げる「よ」など
- 触るグリフの50音表から「よ」を探して触れる
- 息子が触るグリフの「よ」に触れたら、一緒に「よ」と言う

視覚的かつ聴覚的に文字を確かめて、さらに探索して最後と一緒に触れながら音読する。触知覚のフィードバックを介して、文字形態と音韻情報が結びつきます。



効果が見られた場合



<サワルグリフ代表 宮崎からのお願い>

触るグリフは、広告宣伝費を全く使用しておりません。

実際に使ってみて、効果があったり、取り組む様子など、SNSを介して口コミで広がっています。

もし、よろしければ「**#触るグリフ**」で使用状況や効果の報告をツイッター、インスタで上げてくれたら嬉しいです。